平成23年度サメガレイ太平洋北部の資源評価

責任担当水研:東北区水産研究所(服部 努、伊藤正木、成松庸二、稲川 亮)

参 画 機 関:青森県産業技術センター水産総合研究所、岩手県水産技術センター、宮城

県水産技術総合センター、福島県水産試験場、茨城県水産試験場

要約

サメガレイの漁獲量は 1980 年代以降減少したまま回復せず、CPUE も低位水準で推移していることから、資源量は低位水準、資源動向は横ばいと判断される。漁獲が産卵親魚に集中しているため、親魚量を確保することを資源管理目標とした。ABC 算定のための基本規則 2-1)に基づき、平松(4)式を用いて ABClimit=Cave×0.81 とし、不確実性を考慮して安全率 α を 0.8 とし、ABCtarget=ABClimit×0.8 とした。

	2012年ABC	資源管理基準	F値	漁獲割合
ABClimit	220トン	0.81Cave3-yr	_	_
ABCtarget	180トン	0.8 · 0.81Cave3-yr	_	

Caveは2008~2010年の平均、ABCは十トン未満を四捨五入した値。

年	資源量(トン)	漁獲量(トン)	F値	漁獲割合
2009	_	297	_	_
2010	_	250	_	_
2011	_	_	_	

年は暦年、2010年の漁獲量は暫定値。

水準:低位 動向:横ばい

本件資源評価に使用したデータセットは以下のとおり

十一 貝が川 画に 区川 じた	
データセット	基礎情報、関係調査等
漁獲量	
・確定値	沖合底びき網漁業漁獲成績報告書(水産庁、1971~2009年の沖底)
	主要港水揚げ量(青森~茨城県、1997~2009年の沖底以外)
	主要港水揚げ量(青森、福島~茨城県、2010年の沖底以外)
・暫定値	沖合底びき網漁業漁獲成績報告書(水産庁、2010年の沖底)
	主要港水揚げ量(農水省・資源回復計画対象種の漁獲動向、2010年の
	岩手~宮城県のデータ欠損のため、合計値を沖底に使用)
努力量(網数)、CPUE	
・確定値	沖合底びき網漁業漁獲成績報告書(水産庁、1971~2009年の沖底)
• 暫定値	沖合底びき網漁業漁獲成績報告書(水産庁、2010年の沖底)
漁獲物の全長組成	生物情報収集調査(宮城県)

1. まえがき

サメガレイは、主にオホーツク海、北海道および東北地方の太平洋側に分布している。 太平洋北部(沖合底びき網漁業の太平洋北区に相当し、北海道太平洋側を含まない東北太 平洋側の海域を指す)における漁獲量は1978年に6千トン以上に達したが、その後、減少 傾向を示し、長期的にみて 1990 年代以降の漁獲量は極めて低い水準にある。CPUE も低い 値で推移しており、資源状態が悪いことは明らかである。

太平洋北部のサメガレイは、水産庁により平成 13 年度から実施されている「資源回復計画」の対象魚種(TAE 魚種)となり、平成 15 年から保護区の設定により資源回復が図られている。当海域において、サメガレイの大部分が金華山海区以南(小海区の区分は、図3を参照)の沖合底びき網漁業(以下、沖底と呼ぶ)により漁獲されているが、沖底以外の漁獲統計は十分には整備されておらず、生態についても不明な点が多い。

沖底の漁獲成績報告書を分析した結果、2003~2005 年にはサメガレイは 2~4 月の茨城県沖、水深 500~1,000m に産卵のために集群したところを集中的に漁獲されていることが明らかとなった (服部ほか 2008)。サメガレイ資源の回復を図るためには、このような海域において漁獲を控える必要がある。

2. 生態

(1) 分布・回遊

サメガレイは日本各地の水深 150~1,000m の砂泥底に生息し(坂本 1984)、特に北日本で分布密度が高い。太平洋北部では、漁場は海域全体に広がっているが(図1)、金華山・常磐・房総海区(宮城~茨城県沖合)での漁獲量が大部分を占める。大規模な回遊は知られていないが、成長に伴い深場に移動すると考えられている(佐伯 2001)。

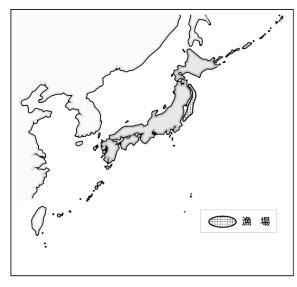


図1. 太平洋北部におけるサメガレイの分布

(2) 年齢·成長

稲川ほか(印刷中)は耳石を用いて年齢査定を行い、下記の成長式を報告している。

雄: $TL = 39.5(1 - e^{-0.474(t+0.172)})$ 、雌: $TL = 52.6(1 - e^{-0.366(t-0.003)})$

TL は全長(cm)、年齢(t)の起算日は2月1日。

表1.太平洋北部におけるサメガレイの年齢と成長

2(1.)	(1 T 1 L P	. , , .	/ / /	1 - 1	C /942C					
	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳
雄	16.8	25.4	30.7	34.0	36.0	37.3	38.1	38.6	38.9	39.1
雌	16.1	27.3	35.0	40.4	44.1	46.7	48.5	49.8	50.6	51.2
	a a IB	a a III:	4 a III:	a a IB	a a IB	a c IB	4 = 115	4 o IE	4 o IE	a o IE
	11歳	12歳	13歳	14歳	15歳	16歳	17歳	18歳	19歳	20歳
雄	11歳 39.3	12歳 39.3	13歳 39.4	14歳 39.4	15歳 39.4	16歳 一	17歳 -	18歳 —	19歳	20歳

	21歳	22歳
雄	_	_
雌	52.6	52.6

稲川ほか(印刷中)の成長式による。全長(cm)で示す。

年齢と全長の関係をみると、2歳までの 雌雄差は小さいが、雌では3歳以上の成長 が雄より早い (表1、図2)。観察個体の最 高年齢は雄で15歳、雌で22歳と報告され ており (稲川ほか 印刷中)、カレイ類の中 でも寿命が長い種といえる。雌の寿命は雄 より長く、全長 45cm を超える個体の大部 分は雌で占められている。

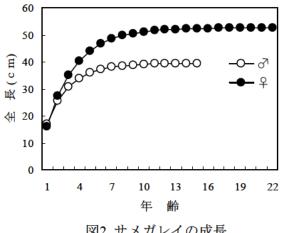


図2. サメガレイの成長

(3) 成熟·産卵

成熟サイズは雄で全長 25cm 以上(満2歳で一部が成熟、満3歳でほとんどが成熟)、雌 で全長 40cm 以上(満3歳で一部が成熟、満4歳でほとんどが成熟)、産卵盛期は1~2月 である(佐伯 2001)。産卵場の水深は 600~900m とされている(坂本 1984)。親魚は産卵 期に集群する (服部ほか 2008)。

(4) 被捕食関係

サメガレイは主にクモヒトデ類を摂餌しており、クモ ヒトデ類以外の餌生物は胃内容物中にほとんど認められ ない(東北区水産研究所八戸支所 1951、 三河 1953、佐 伯 2001)。被食についての情報は皆無で、サメガレイを 捕食している魚種等は報告されていない。

3. 漁業の状況

(1) 漁業の概要

太平洋北部では、サメガレイは主に沖底により漁獲さ れており、他の漁業種類による漁獲量は極めて少ない。 また、沖底の海区別漁獲量をみると、金華山・常磐・房 総海区(宮城~茨城県沖合)での漁獲が大部分を占めて いる (図3)。 サメガレイの漁場は、1970 年代前半には金 華山海区が中心であったが、1970年代後半には常磐海区、 1980年代には房総海区に南下した。宮城県では、2月前 後の産卵期に水揚げが集中していることから、産卵親魚 への漁獲圧が高いと考えられている(佐伯 2001)。

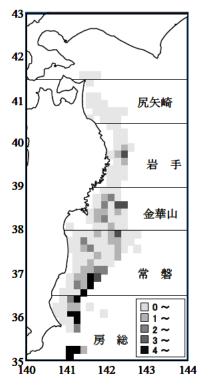


図 3.2009 年の沖底の漁場分布 単位はトン。

(2) 漁獲量の推移

沖底の漁獲量の推移をみると (表 2、図 4)、漁獲量は 1978 年の 6 千 3 百トンをピーク に減少を続け、1998年には最低水準の108トンを記録した。その後、漁獲量はやや増加し、

2010年には228トン(暫定値)となっているが、過去5年は200~300トンで推移してい る。主漁場である金華山海区以南では、オッタートロール漁法により操業が行われている が、この海域の漁獲量の変化も同様の傾向を示し、近年の漁獲量は低い値となっている。

1997 年以降、各県水試による主要港水揚量の集計から、漁業種類別の漁獲量が把握でき ている(表3)。それによると、2010年の沖底以外の漁獲量は22トンと少なく、全漁業種 類合計の漁獲量は250トン(暫定値)となっている。

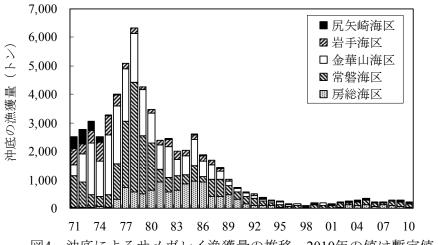


図4. 沖底によるサメガレイ漁獲量の推移 2010年の値は暫定値。

表2. 沖底による海区別のサメガレイ漁獲量(トン)

11/20 11 /EXT	-00	→ 1 1 1 0 0	, , , , , , ,	+ 1 IVV	//X == '	(1 ~)				
小海区	1971	1972	1973	1974	1975	1976	1977	1978	1979	1980
尻矢崎海区	419	521	312	204	41	37	5	8	8	16
岩手海区	563	350	457	662	668	388	194	178	69	101
金華山海区	393	984	1,803	1,240	2,098	2,028	1,833	1,719	1,650	1,065
常磐海区	1,110	876	458	344	442	1,264	2,330	3,860	2,019	1,653
房総海区	21	46	34	64	44	305	731	565	513	636
計	2,506	2,777	3,064	2,514	3,293	4,021	5,093	6,329	4,258	3,471
小海区	1981	1982	1983	1984	1985	1986	1987	1988	1989	1990
尻矢崎海区	13	42	14	10	10	25	7	2	2	1
岩手海区	149	244	301	193	173	197	149	101	65	50
金華山海区	884	1,080	574	663	924	566	507	301	147	122
常磐海区	423	530	502	333	531	185	602	589	309	248
房総海区	932	560	630	850	960	913	426	425	491	326
計	2,400	2,455	2,020	2,049	2,598	1,886	1,691	1,418	1,014	746
小海区	1991	1992	1993	1994	1995	1996	1997	1998	1999	2000
尻矢崎海区	1	4	7	3	5	4	3	4	5	3
岩手海区	34	54	41	37	39	29	26	27	28	22
金華山海区	122	113	78	65	82	61	40	39	56	69
常磐海区	263	251	144	76	109	65	96	36	103	95
房総海区	162	89	103	110	19	2	10	2	14	12
<u></u> 計	581	510	373	290	253	161	174	108	207	201
小海区	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
尻矢崎海区	5	5	5	4	4	3	1	1	3	10
岩手海区	15	7	22	9	7	11	12	5	12	23
金華山海区	48	39	40	25	41	34	17	31	30	31
常磐海区	78	137	84	128	156	111	72	135	160	126
房総海区	14	39	113	106	127	75	117	107	76	37
計	160	226	265	272	335	234	219	279	281	228
76 [B B D D A V# 74-5]										

漁場別漁獲統計資料による。2010年は暫定値。

衣3./ 県	名	(十八司)に 漁業種	1997	1998	1999	2000	2001	爱里 ⁰ 2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
青	森	沖底	7	13	15	10	8	17	14	7	6	5	3	2	5	19
		小底	4	8	11	7	4	2	8	10	5	2	2	1	3	18
		刺網	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		延縄	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		定置	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		その他	1	1	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	1	0
岩	手	沖底	31	31	33	26	16	7	24	10	7	12	11	5	13	31
		小底	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		刺網	0	0	1	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	
		延縄	0	0	0	0	1	0	1	1	1	1	1	1	0	
		定置	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		その他	2	4	6	9	6	7	0	0	0	0	0	0	0	
宮	城	沖底	58	89	161	152	120	222	228	256	299	207	147	243	234	176
		小底	44	2	0	0	1	9	1	1	1	0	0	1	3	
		刺網	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	
		延縄	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		定置	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
7 	<u>.</u>	その他	2	5	10	15	13	0	8	1	21	0	0	0	0	67
福	島	沖底 小底	12 0	23 0	45 0	28 3	28 7	26 4	38 0	34 0	50 0	30 0	18 0	18 0	39 2	67 2
		刺網	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		延縄	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		定置	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		た直 その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	1
茨	城	沖底	0	1	1	1	1	2	2	0	1	0	0	0	1	1
170	-744	小底	1	0	0	0	1	0	0	2	3	1	1	0	1	1
		刺網	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		延縄	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0
		定置	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
小	計	沖底*	174	108	207	201	160	226	265	272	335	234	219	279	281	228
		小底	49	9	12	11	13	15	9	13	10	4	3	2	9	21
		刺網	0	0	1	1	0	0	0	1	1	1	1	0	4	0
		延縄	0	0	0	0	1	0	2	1	1	1	1	1	0	0
		定置	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		その他	5	10	16	24	20	7	8	1	22	0	0	0	3	1
総	計		229	127	235	237	194	249	285	289	368	239	223	282	297	250

表3.太平洋北部における県別のサメガレイ漁獲量の経年変化

(3) 漁獲努力量

過去に比べて漁獲量が激減しているサメガレイの場合、努力量(サメガレイの入網した網数)に占める狙い操業の割合が減少している可能性がある。これを補正するため、主漁場である金華山海区以南の漁区ごとのオッタートロールの努力量を用い、下式(山田・田中 1999)により各漁区の努力量を CPUE で重み付けし、合計したものを有効努力量として求めた。

$$\widehat{E} = \frac{1}{\overline{U}} \sum_{a=1}^{A} (E_a \cdot U_a)$$

E:努力量, U:CPUE, a:漁区

有効努力量は、漁獲量が多かった 1978 年に 2 万 8 千網と最も高い値を示し、1989 年まで 1 万 5 千網前後で推移したが、その後、減少傾向を示し、1996 年には過去最低の 6 千網

各県の漁業種類別漁獲量は各県水試調べ(主要港)、2010年の沖底小計は暫定値(漁場別漁獲統計資料)

²⁰¹⁰年の岩手・宮城の沖底の値は、資源回復計画対象種の漁獲動向(農水省)の合計値とした(沖底以外を多少含む)。

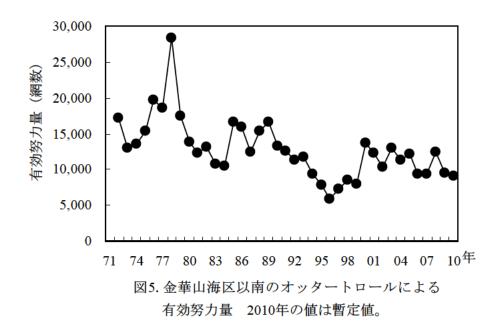
^{*}沖底の小計は漁場別漁獲統計資料によるため、各県水試調べの合計値と一致しない。

弱となった (表 4、図 5)。そして、1997年以降には増加に転じ、2000年以降はほぼ横ばいか、緩やかな減少傾向となっている (2010年は9千網強)。

表4.金華山海区以南のオッタートロールによる漁獲量、有効努力量およびCPUE

	以南のオッタートロー		力量およびCPUE
年	漁獲量(トン)	有効努力量(網数)	CPUE(kg/網)
1971	1,524		
1972	1,790	17,102	104.7
1973	2,250	13,007	173.0
1974	1,390	13,505	102.9
1975	2,561	15,281	167.6
1976	3,489	19,668	177.4
1977	4,892	18,574	263.4
1978	4,871	28,357	171.8
1979	4,163	17,431	238.8
1980	3,354	13,870	241.8
1981	2,074	12,233	169.5
1982	2,152	13,119	164.0
1983	1,959	10,742	182.4
1984	1,770	10,454	169.3
1985	2,290	16,558	138.3
1986	1,664	15,904	104.6
1987	1,533	12,408	123.5
1988	1,314	15,321	85.8
1989	947	16,552	57.2
1990	695	13,234	52.5
1991	547	12,612	43.4
1992	453	11,353	39.9
1993	325	11,661	27.8
1994	251	9,285	27.0
1995	210	7,838	26.8
1996	129	5,794	22.2
1997	145	7,213	20.1
1998	75	8,468	8.9
1999	172	8,015	21.5
2000	175	13,739	12.7
2001	139	12,338	11.3
2002	214	10,371	20.6
2003	237	12,916	18.3
2004	258	11,344	22.7
2005	324	12,194	26.6
2006	218	9,398	23.2
2007	206	9,355	22.0
2008	272	12,351	22.0
2009	264	9,481	27.9
2010	191	9,137	20.9

2010年の値は暫定値。



4. 資源の状態

(1) 資源評価の方法

太平洋北部ではトロール調査により底魚類の資源量を推定しているが、本調査でのサメ ガレイの採集個体数は少なく、十分な精度の資源量推定値を得ることは困難である。沖底 の主要な漁場である金華山海区以南(金華山・常磐・房総海区)では単一の漁法(オッタ ートロール)で操業が行われているため、漁獲量に加え、金華山海区以南の CPUE の推移 を用いて資源評価を行った。

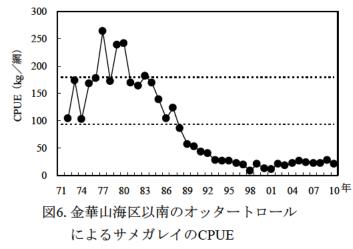
(2) CPUE の推移

サメガレイの漁獲は大部分が沖底によるものであり、沖底の CPUE はサメガレイの資源 動向を長期的に判断できる指標である。ここでは、主漁場である金華山海区以南の有効努 力量を用いて得られた CPUE の推移を示した(表 4、図 6)。これをみると、CPUE は長期 的には減少傾向にあり、1990 年代以降は低い水準で推移している。過去 5 年の CPUE の経

年変化に増減傾向は認められず、 横ばい傾向にあると判断される。

(3) 漁獲物の全長組成

大部分のサメガレイが水揚げさ れる宮城県石巻漁港の漁獲物の全 長組成を示した(図7)。なお、2010 年の資料は得られていないため、 ここでは 2009 年の結果を示す。こ れをみると、漁獲物の大部分は全 長 30~55cm であり、その組成は 39cm と 49cm にピークを持つ二峰



2010年の値は暫定値。

型であった。大きな峰は雌、小さな峰は雄により占められ、漁獲物の中心は親魚である。産卵期前後に漁獲が集中していること(佐伯2001)から、産卵のために集群してきた親魚を集中的に漁獲しているものと考えられる。

(4) 資源の水準・動向 沖底によるサメガレイの

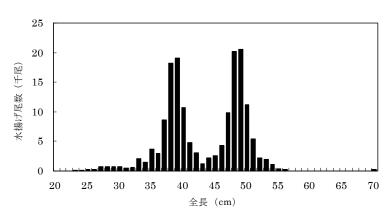


図7. 石巻港に水揚げされたサメガレイの全長組成 宮城水技セによる調べ(2009年)。

CPUE は低い水準で推移しており(図 6)、資源状態は低位水準にあると判断される(水準の区分は過去最大と過去最小の間を 3 等分して設定)。過去 5 年の CPUE は横ばい傾向にあり、資源動向は横ばい傾向と考えられる。

水準:低位 動向:横ばい

5. 資源管理の方策

再生産関係は把握できておらず、加入量と海洋環境との関係も不明である。資源水準は低位にあり、資源動向は横ばい傾向と判断される。漁獲が産卵親魚に集中していると考えられることから、親魚量を増加させるため、努力量を現状より低く設定する必要がある。

6.2012年のABCの算定

(1) 資源評価のまとめ

長期にわたる漁獲量および CPUE の推移から、資源状態が悪化し、現在の資源が低位水準にあることは明らかである。また、近年の資源は横ばい傾向にある。産卵期に集中的に漁獲されることから、産卵親魚を保護して資源量を増加させることが必要である。

(2) ABC の算定

親魚量を確保することを資源管理目標とし、基本規則 2-1)に基づいて下記の手順で ABC の算定を行った。

平松 (2004) によれば、資源量指数のトレンドに資源水準を組み合わせた式 (論文中の(4)式) が低位にある資源では管理の失敗を減少させるのに有効であり、最も妥当とされている。

$$ABC_{\scriptscriptstyle y} = \gamma \times \overline{C} \bigg(1 + k \frac{b}{I} \bigg)$$

(γ:水準による係数、I:資源量指数の平均値、b:資源量指数の傾き、k:パラメータ)

そこで、平松(4)式を用いて ABClimit を求めた。サメガレイは低位水準にあるので、 γ はデフォルトの 0.8 とし、Cave には過去 3 年の平均値(2008~2010 年)を用いた。ここで Cave を 3 年平均としたのは、低位水準にあるサメガレイ資源に対し、直近年の漁獲動向を強く反映させた ABC を提案するためである。I は 2008~2010 年の平均の CPUE、b は 2005~2010 年の CPUE の傾きとし、k はデフォルトの 2.5 とした。

ABClimit= $0.8 \times \text{Cave} \times (1+2.5 \times 0.127/23.6)$ =Cave $\times 0.81$ となり、ABClimit= 276×0.81 =224 トンとなる。さらに、不確実性を考慮して安全率 α を 0.8 とし、ABCtarget=ABClimit $\times 0.8$ とした結果、ABCtarget=179 トンと計算される。

	2012年ABC	資源管理基準	F値	漁獲割合
ABClimit	220トン	0.81Cave3-yr	_	_
ABCtarget	180トン	0.8 · 0.81Cave3-yr	_	_
~ \\\		. = ~ : 2)) LL	

Caveは2008~2010年の平均、ABCは十トン未満を四捨五入した値。

(3) ABC の再評価

昨年度評価以降追加された データセット	修正・更新された数値
2009年漁獲量確定値	2009年漁獲量の確定
2009年CPUE確定値	2009年CPUEの確定

評価対象年(当初・再評価)	管理基準	F値	資源量	ABClimit	ABCtarget	漁獲量
2010年(当初)	0.78Cave3-yr	_	_	190	150	
2010年(2010年再評価)	0.76Cave3-yr	_	_	190	150	
2010年(2011年再評価)	0.76Cave3-yr	_	_	190	150	250
2011年(当初)	0.86Cave3-yr	_	_	220	180	
2011年(2011年再評価)	0.81Cave3-yr	_	_	220	170	

²⁰¹⁰年の漁獲量は暫定値、F値は漁獲割合、量の単位はトン、ABCは十トン未満を四捨五入した値。

7. ABC 以外の管理方策への提言

漁期が産卵期前後に集中している。沖底の漁獲成績報告書を分析すると、2003~2005年には産卵期および産卵期後に限られた海域(2~4月の茨城県沖、水深500~1,000m)でサメガレイがまとまって漁獲されていた(服部ほか2008)。2005年4月の茨城県沖にみられた CPUEの高い漁区(10分升目で4箇所分)において2~4月に保護区を設置した場合、金華山海区以南の漁獲量の20%前後が削減される。一方、2~4月のこれらの漁区ではキチジやイトヒキダラも漁獲されているが、それらの漁獲量は全体に比べて少ない。サメガレイが産卵のために集群している海域において漁獲を控えることが、サメガレイの資源管理に有効な方策の1つであると考える。

現在、水深 100m 前後の海域において小型魚が多く漁獲され、耳石による年齢査定からこれら小型魚が 2008 年級群であることが明らかとなっている (服部ほか 印刷中)。2008 年級群は加入量が多いと考えられるため、小型魚のうちに獲り尽くさないようにすべきである。今後、2008 年級群が順調に成長し、産卵親魚になるまで豊度を保てるかを注視する

必要がある。

8. 引用文献

- 服部 努・上田祐司・成松庸二・伊藤正木 (2008) 東北海域におけるサメガレイ分布域の 長期変化. 水産海洋研究,72,14-21.
- 服部 努・稲川 亮・成松庸二・伊藤正木 (2011) 東北海域におけるサメガレイ 2008 年級 群の加入. 東北底魚研究, 31, 印刷中.
- 平松一彦 (2004) オペレーティングモデルを用いた ABC 算定ルールの検討. 日水誌, 70, 879-883.
- 稲川 亮・服部 努・渡邊一仁・成松庸二・伊藤正木 (2011) サメガレイの年齢査定と成 長様式. 東北底魚研究,31, 印刷中.
- 三河正男 (1953) 東北海区における底魚類の消化系と食性に就いて. 第2報サメガレイ・ババガレイ. 東北水研研報, 2, 26-36.
- 佐伯光広 (2001) 三陸・常磐沖合で漁獲されたサメガレイの生態と資源管理について. 宮城水産研報, 1, 93-102.
- 坂本一男 (1984) サメガレイ. 日本産魚類大図鑑-解説(益田 一・尼岡邦夫・荒賀忠一・上野輝彌・吉野哲夫(編)), 東海大学出版, p.339.
- 東北区水産研究所八戸支所 (1951) サメガレイ. 東北区水産研究所海洋資源年報, 第4底魚 資源編, pp.26-32.
- 山田作太郎・田中英次 (1999) 水産資源学. 成山堂書店、東京、151pp.